



「建学の精神」のレポートを読んで

今年もまた、「建学の精神」の答案を興味深く読ませてもらいました。そのほんの一端を紹介させて頂こうと思います。

こんな文章がありました。「私には夢があります。しかし、それは管理栄養士になることでも、憧れの場所に就職することでもありません。たしかに、これらは欠かすことの出来ない手段のひとつですが、これら自体が目的ではないのです。私の夢は、誰かが幸せに生きていくための力を引き出せる人になることです。そして、この世界に一人ひとりにとっての幸せを噛みしめて生きる人をひとりでも多くすることです」。

ここには、難しい言葉も、難しい表現もありません。誰にでも解かる易しい文章です。しかし、ここに書かれていることは、「教育の理念」と「教育の目標」の違いも意識した、決して簡単な内容といったものではありません。また、アリストテレスがその著『形而上学』の中で語った、例えば種が花の可能態であり、花は種の現実態であるというように、その関係が最高の目的である幸福に向かって発展していくという彼の目的論と、本質的にはそう違ったものでもないのです。

この学生のいっていることをアリストテレス風に説明すれば、こういうことになるでしょう。「私は高校時代に受験勉強をしました。それは大学に入るための欠かすことの出来ない手段でしたし、受験勉強をしていた時、大学は無くてはならない目的でした。何故なら、目的が無ければ、その手段の意味は失われてしまうからです。大学で栄養学や食品学を学ぶのは管理栄養士の資格を取るための手段ですし、管理栄養士は大学で学ぶことの目的です。そして、この関係は、その先更にと。そう考えると、全てのことは、あるステップにおいては、何らか手段と何らか目的が混合したものですし、全てのことは、欠かすことの出来ない手段であると同時に、無くてはならない目的なのです。そして、これらの手段と目的を含んで成り立っている今生きているということの事実は、自分が目指す最高の目的、即ち世界に生きる一人ひとりの幸せを実現することへと包み込まれていくのだ」と。

また、ある学生は、こういうことを書いていました。この授業を聴いて「科学的という言葉の捉え方をもう一度考えるきっかけとなりました。科学的な物の見方、客観性を理解し、活用するためには必ず教養が必要になってくるということ。どちらも欠けてはならない重要なことなので身に付けていきたいと思いました」。これも、ヤスパースがその著『大学の理念』の中で強調した「学問の専門性」と「認識の全体性」という問題に通ずるものでもあるのです。英語の“science”の語源は、ラテン語の“scientia”ですが、それは、「枝分かれした知識」といった意味です。それぞれに枝分かれした知識は知識として、正確に理解

しなければなりません。特に自分が専門職に就いていく場合、それぞれの学科の専門科目を一生懸命勉強し、資格も取り、免許も取り、それぞれの分野に通じていかなければならないのは、当然のことです。しかし、彼が言わんとすることは、その結果学問が極端に特殊科学に限定されてしまうことによって、他の分野など自分とは関係ない、知る必要もないものと遠ざけられてしまうのなら、自分の専門とする学問分野の意味や価値さえも見失ってしまう「知の意識の貧困化」が生じてくるのだ、それを克服するものこそ、自分の専門とする知識や技術が社会全体にとってどのような意味を持つのか、またどのような価値を持つのかということを知る力、つまりは教養の力なのであると。それ故、大学の授業は、専門と教養の相補性に立たなければならぬのであると。

そうかと思うと、私たち大人には決して書けない文章、しかしそれは幼稚という意味ではない、あるタレントと自分を比較しながら、18歳の若者が18歳の言葉で18歳の思いを率直に語っている巧みな文章に出くわしたり、思わずハッとさせられることも少なくありませんでした。

また、「私は、建学の精神の授業を通して、『人を大切に』に関するお話が最も印象に残りました。中でも、特に心に響いた言葉が二つあります。一つ目は、『他者という存在は、他者だけで尽きているのではなく、私の中でまた生きているという事実です。いや、他者が私の存在の重要な部分を形作っているという事実です』という言葉です。二つ目は、『人間は、ただ存在しているだけで他者を幸福にする力を持っている』という言葉です。これらの言葉が強く心に響いた理由は、身をもってこれらを実感する出来事を経験したからです」、こういった読み手の心に切実に迫ってくる心情を吐露してくれる文章もありました。

こうして、学生諸君のさまざまな受け止め方を目の当たりにし、授業を担当する私の方が感謝の念を深くするのです。

※ギリシア語の「デュナミス」や「エネルゲイア」は、英語の「ダイナミクス」や独語の「エネルギー」の語源。なお、「態」とは、「状態」とか「様相」といった意味。

[>前のページへ戻る](#)